4月 卯月・清和月 April

水	1	大安
木	2	赤口
金	3	先勝
土	4	友引・清明
日	5	先負 定休日
月	6	仏滅
火	7	大安
水	8	赤口
木	9	先勝
金	10	友引
土	11	先負
日	12	仏滅 定休日
月	13	大安
火	14	赤口
水	15	先勝
木	16	友引 プチ茶会
金	17	先負 プチ茶会
土	18	仏滅 プチ茶会
日	19	大安・穀雨 定休日
月	20	赤口
火	21	先負
水	22	友引
木	23	仏滅
金	24	大安
土	25	赤口
日	26	先勝 休日営業
月	27	友引
火	28	先負
水	29	仏滅・昭和の日 休日営業
木	30	大安

・・卯月のプチ茶会ご案内・・

行く春を惜しむ 炉塞ぎ（ふさ）の茶会

全国和菓子めぐり 一日四十個限定「ご縁の国しまね」のお菓子でお愉しみください

12代宮崎寒雑　透木釜

4/16木 17金 18土

9:00am→4:00pm

於　1階小間席

同時開催　名物写茶入展 & プチお買得市

月刊 いつもの ぎゃらりーさん

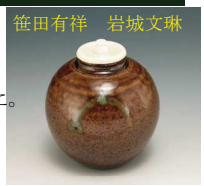
（題字・三輪休和）

124号

2020年4月発行

大正名器鑑掲載

名物茶入の区分には諸説がありますが「大名物」は、利休以前に選定されたもので足利義政「東山御物」を主とし唐物が多く、「中興名物」は小堀遠州の選定によるものとされている。◆中興名物 岩城文琳・大名物 遅桜肩衝のご紹介です◆


笹田有祥　岩城文琳

岩城文琳 別名「上天文琳」。もと陸奥国の戦国武将岩城貞隆が所持により名付けられた。「上天文琳」の名については、天子に上覧の意ともいわれるが、おそらくは無上にすぐれているという意味である。のちに伊達家の蔵になった。球状に近く豊満で美しい形、分流する渓間の景を思わせる釉がかりも変化に富み文琳中でも優れた茶入である。

添盆・青貝四方盆　挽家・小堀権十郎　仕覆・鳥襷緞子　白地古金襴　他

￥43,600→￥30,600

笹田有祥
遅桜肩衝

遅桜肩衝（おそざくらかたつき）　大名物。漢作唐物。初花肩衝より珍しいが初花より遅れて世に出たため足利義政が『金葉集』の「夏山の青葉まじりの遅桜初花よりもめつらしき哉」の古歌に因んで命銘し所持したと伝えられる。茶入れは甑・肩とも堂々として漢作肩衝の偉容を誇り、底の板起しもおさまりがよい。釉景は「初花肩衝」のような派手さはないが、総体に紫地黒飴釉が漂い地味ではあるが、置形には黒飴釉が斜めに流れて盆付にまで達し、すこぶる美しい。伝来は、足利義政～篠屋宗久～藤堂高虎～蒲生忠郷（氏郷の孫）～柳営御物～松平忠明～松平忠弘～柳営御物～甲府徳松～柳営御物～三井家～三井文庫（柳営御物とは徳川将軍家の名物茶道具）－原色陶器大辞典より－

￥53,300→￥37,300

京焼の古窯粟田焼　錦光山焼について

京焼の始まり～古墳時代雄略天皇・奈良時代聖武天皇の時に御器を造らせたことに始まるとされているが、俗にいう焼締め（やきしめ）締焼きであった。慶長年間初頭1590年代末には三条粟田口界隈で粟田焼の生産が始まったが、この時期以前の京都では、中国人陶工の三彩や交趾焼などが生産されており、このことがその後の絵付のルーツとなったと考えられている。色絵陶器の成立～江戸時代初期に入り茶陶生産が高まり、押小路・深草・音羽・清水・清閑寺・御菩薩池（みぞろがいけ）・錦光山焼が全国の諸窯に影響をあたえた。その中でも御室焼の野々村仁清によって京焼色絵陶器が完成された。仁清の死後～仁清から学んだ光琳の弟・尾形乾山は優れた作品を多く残し、奥田頴川・青木木米・仁阿弥道八・永楽保全、和全など名工が生まれた。1896年（明治29年）には京都市立陶磁器試験場が設立され、現在に至っている。　－ 原色陶器大辞典より －

仁阿弥道八
刷毛目茶碗　鵬雲斎箱

錦光山焼
紅葉に菊絵蓋物

錦光山焼

京焼の第一黄金期には、古清水と俗称される仁清風の色絵陶が東山山麓粟田口を中心とする一帯に活躍した。中でも、正保頃（1644～48）初代小林徳右衛門及びその一族は鍵屋と号して粟田口に窯を築き活躍した。元禄年間（1690年）３代茂兵衛が粟田口青蓮院宮の御用を命じられ、錦光山の名を授かる。宝暦6年には、将軍家御用焼物師という粟田口陶家中の最高地位に就いている。文久年間（1861年頃）神戸の外国商社を通じ製陶品の輸出を行ったとされる。6代宗兵衛（1824～1884）の代から姓を錦光山と改めた。進取の気性に富む6代は、明治期粟田焼の作風を象徴する薩摩焼風色絵の手法を取り入れ、一時は250人の職工を擁し、貿易も活発に営んだ。明治26年（1893）のシカゴ万博では竹本隼太、宮川香山が賞牌を受賞したが、錦光山宗兵衛の作品は展示されることはなかった。写真①　京薩摩の最高傑作、錦光山の作品は魅力的であったが、竹本の作品が当時世界的に流行しつつあった清朝陶磁に迫るものとして評価され、錦光山の力作は評価されなかった。明治前期の技巧をを凝らした細密描写と絵画意匠の「ＳＡＴＵＭＡ」から、新しいものを求めはじめた錦光山は、1900年パリ万博後アール・ヌーヴォーの陶磁を作り出した。－茶碗名鑑より－

青蓮院宮の青木木米碑

写真①

1893年シカゴ万博での出品作

華乃会　お買い得価格　粟田焼風　山川敦司

紫陽花茶碗
￥17,000→￥11,900

八ッ橋茶碗
￥33,900→￥23,700

波千鳥茶碗
￥22,000→￥15,400

楓流水茶碗
￥33,900→￥23,700

・・編集の窓・・

桜と残雪の中央アルプス　photo by S.A

我を世に　ありやと問わば　信濃なる
いなと答えよ　嶺の松風
宗良親王

長野県上伊那郡　大草城址公園の桜

長野県上伊那郡中川村にあった「大草城」は南北朝時代初期に築城されたと推定される。城主、香坂高宗は南北朝時代、南朝方後醍醐天皇の第八皇子、宗良親王を大河原に迎え、手厚く守護してここを拠点に、幾度もの作戦行動を起こしていた。天正九年織田軍の伊那侵攻以後に廃されたのちには　昭和五二年中川村の史跡に指定され、現在　跡地は大草城址公園として整備されている　南北朝時代を偲ぶ宗良親王の歌碑がある公園では春にはたくさんの桜が咲き誇り、残雪の中央アルプスとともに桜と残雪の山の景色を楽しむことができる

コロナウイルスが流行り出掛けにくい状況となっておりますね。一刻でも早く終息を願いアマビエのイラストを載せておきます。

アマビエ：江戸末期に現在の弘化3年（1846年）に、現在の熊本県に出現したと言われる妖怪。当時の瓦版によると6年間の豊作を予言した上で、「病気が流行したら自分の姿を写して人々に見せるように」と伝えて海中に消えたという。

ギャラリー森田ホームページ

左記のQRコードを読み込みアクセスしてください！

スマホでご覧いただけます

ご案内

Instagram

新潟駅南 ギャラリー森田　月刊「ぎゃらりいさん」編集プロジェクト